

# TeraTerm で Telnet

Seiichi Nukayama

2021-08-22

## 目次

1	XAMPP のインストール	1
2	TeraTerm のインストール	1
2.1	TeraTerm のダウンロード . . . . .	1
3	Web サーバーを動かす	9
3.1	作業フォルダで HTML ファイルを作成 . . . . .	9
3.2	簡易 Web サーバーを起動 . . . . .	9
4	Telnet で Web サーバーと通信する	10
4.1	Telnet とは . . . . .	10
4.2	TeraTerm の設定 . . . . .	10
5	Telnet で GET リクエスト	13
5.1	ブラウザは何をやっているのか? . . . . .	13
5.2	GET リクエスト . . . . .	13
5.3	TeraTerm で Get リクエスト . . . . .	13
5.4	さまざまな GET リクエスト . . . . .	16
5.5	ブラウザのやっていること . . . . .	17
6	Telnet で POST リクエスト	18
6.1	サーバー側で準備をする . . . . .	18
6.2	Telnet での POST 送信のしかた . . . . .	21
6.3	TeraTerm で POST 送信をやってみる . . . . .	23
7	PHP と JavaScript	28
7.1	PHP のはたらき . . . . .	28
7.2	JavaScript のはたらき . . . . .	28
7.3	TeraTerm でやってみる . . . . .	30

Web ブラウザで Web サイトを閲覧するというのは、いったい何をしているのだろうか。

ブラウザと Web サーバーでどういうやりとりをしているのだろうか。

それを Telnet 接続によって体験してみる。

そのために PHP と TeraTerm が必要である。PHP は、その簡易サーバー機能を使う。また、簡単な php スクリプトも使う。

TeraTerm は、それを使って サーバーに Telnet 接続をする。

## 1 XAMPP のインストール

別文書”XAMPP のインストールと設定”を参照。

## 2 TeraTerm のインストール

### 2.1 TeraTerm のダウンロード

Google 検索「teraterm」とすると、以下のサイトが一番上にくるはず。

The screenshot shows a Google search result for 'teraterm'. At the top, it says '約 542,000 件 (0.39 秒)'. Below that is a breadcrumb trail: 'https://ja.osdn.net > ソフトウェアを探す > 端末 > シリアル'. The main result is titled 'Tera Term (テラターム) プロジェクト日本語トップページ' with a red arrow pointing to it. The description says 'Tera Term は、オリジナルの Tera Term Pro 2.3 の原作者公認の後継版です。オープンソースで開発されており、UTF-8 表示に対応しています。' It also shows a star rating of 4.6 from 2,098 reviews and lists '無料' and 'Windows'. Below the description are links for 'ダウンロードファイル一覧', 'Tera Term', 'Tera Term のインストール方法', and '公開フィード一覧'. At the bottom, there is a box titled '他の人はこちらも検索' with a close button 'X'. It contains four search suggestions: 'Teratermマクロ', 'teraterm ssh 接続できない', 'teraterm 日本語', 'teraterm 文字化け', 'teraterm インストール不要', and 'teraterm シリアル通信'.

約 542,000 件 (0.39 秒)

https://ja.osdn.net > ソフトウェアを探す > 端末 > シリアル ▼

→ **Tera Term (テラターム) プロジェクト日本語トップページ**

Tera Term は、オリジナルの Tera Term Pro 2.3 の原作者公認の後継版です。オープンソースで開発されており、UTF-8 表示に対応しています。

★★★★★ 評価: 4.6 · 2,098 票 · 無料 · Windows

ダウンロードファイル一覧 · Tera Term · Tera Term のインストール方法 · 公開フィード一覧

他の人はこちらも検索 X

- Teratermマクロ
- teraterm ssh 接続できない
- teraterm 日本語
- teraterm 文字化け
- teraterm インストール不要
- teraterm シリアル通信

このリンクをクリックすると、以下のページになる。

プロジェクトの説明



画像一覧

Tera Term は、オリジナルの [Tera Term Pro 2.3](#) の原作者公認の後継版です。オープンソースで開発されており、UTF-8 表示に対応しています。また、SSH1 対応モジュール TTSSH を拡張し、SSH2 プロトコルをサポートしています。

### インストール

ダウンロードが完了したら、パッケージをクリック（もしくはダブルクリック）して実行する。するとインストールウィザードが起動してインストールする。なお、途中でインストール...

### 使い方

デスクトップに作成されたTera Termのショートカットアイコンをクリック（あるいはダブルクリック）して起動するとメインウィンドウが表示される。メインウィンドウと「新しい接続」...

### ダウンロード

最新リリース

[Tera Term 4.106](#) (日付: 2021-06-05)

[Tera Term RC 4.106 RC](#) (日付: 2021-05-22)

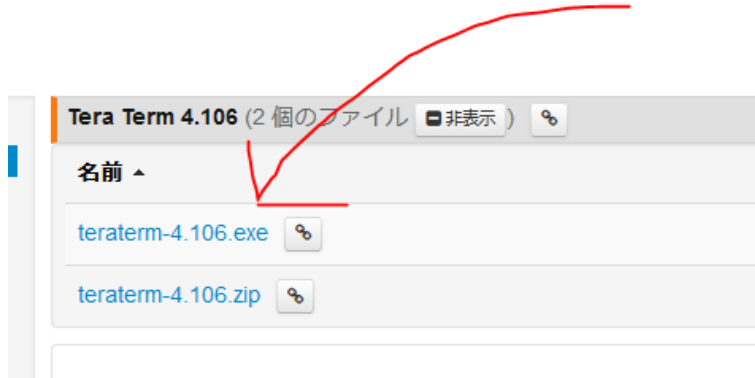
[Tera Term 4.105](#) (日付: 2019-12-07)

[Tera Term RC 4.105 RC](#) (日付: 2019-11-23)

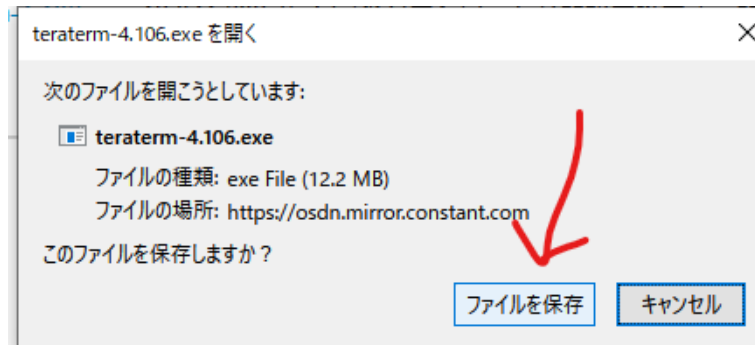
[Tera Term 4.104](#) (日付: 2019-08-31)

”ダウンロード”の項目の”最新リリース”から、Tera Term 4.106 をクリック。

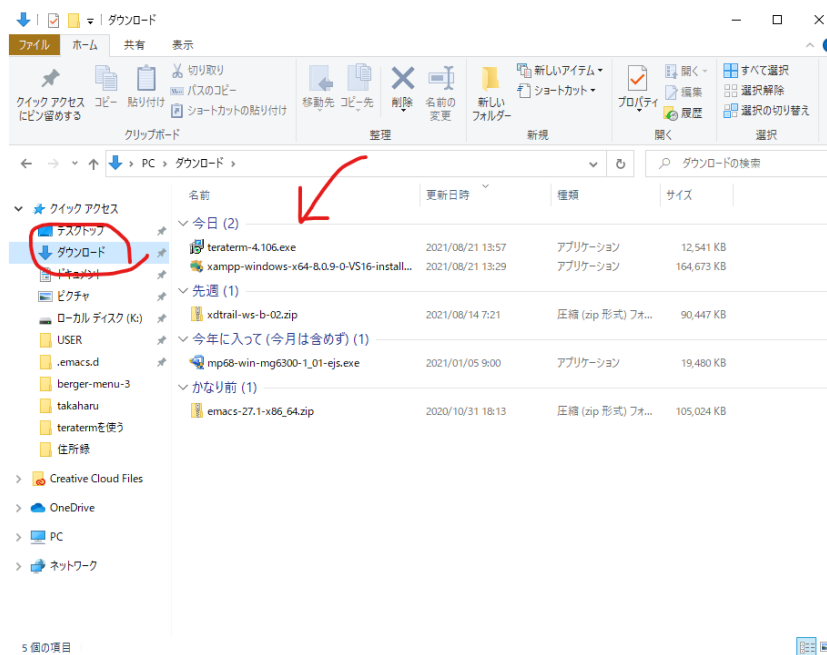
次に開いたページで、teraterm-4.106.exe と teraterm-4.106.zip の 2 つが選択できるが、どちらも内容は同じ。ここでは、teraterm-4.106.exe を選択する。



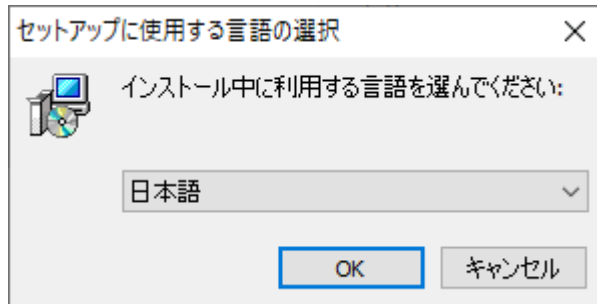
次のダイアログが表示されるので、”ファイルを保存” とする。



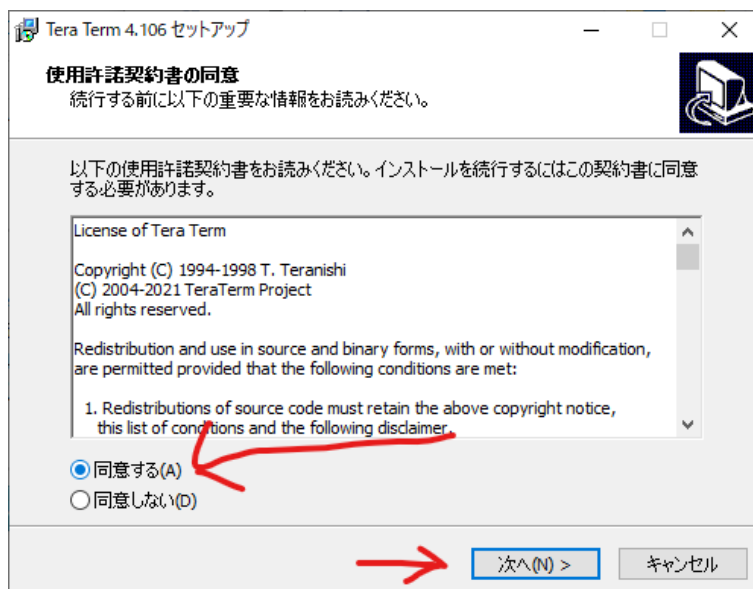
すぐに保存される。ダウンロードフォルダに保存されるので、ダウンロードフォルダを開く。



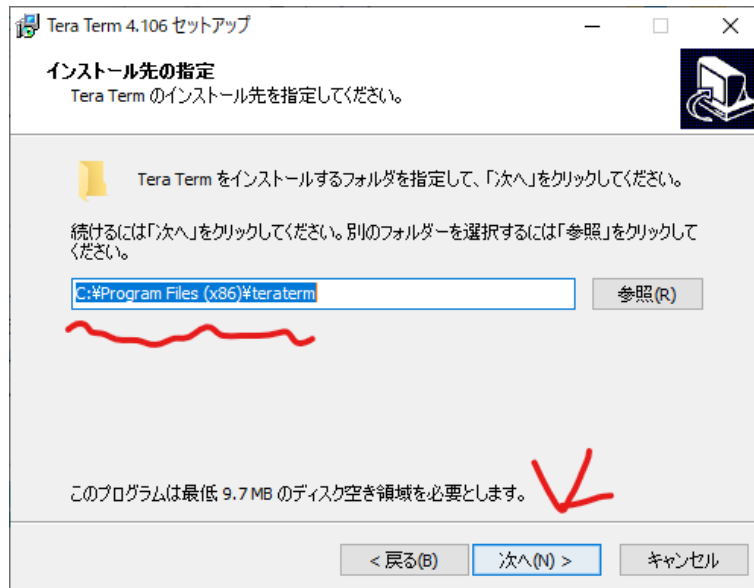
ダウンロードされた teraterm-4.106.exe をダブルクリックして、インストールを始める。  
インストールする言語に「日本語」を選択。



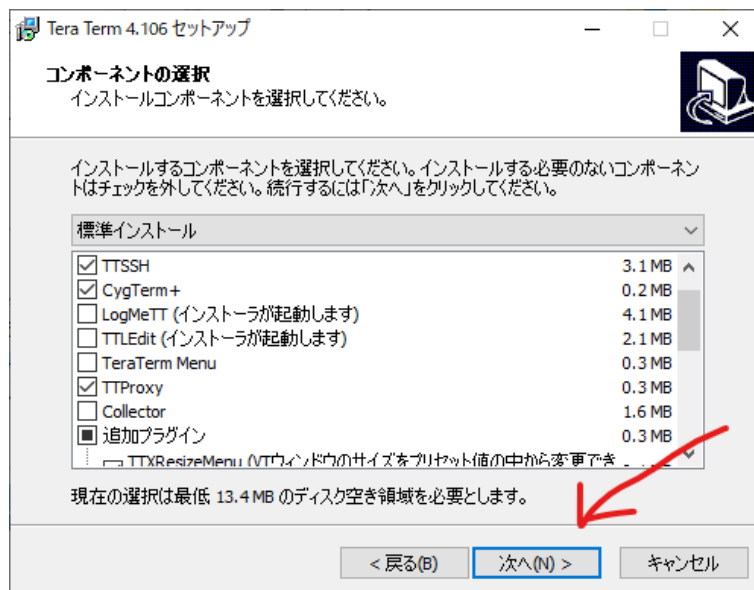
「使用許諾契約書の同意」は「同意する」にチェック。



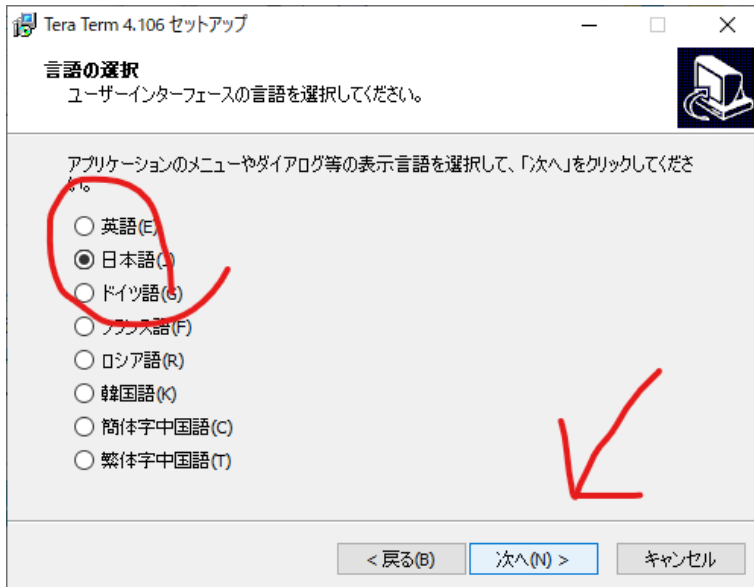
インストール先を確認。(C:\Program Files (x86)\teraterm)



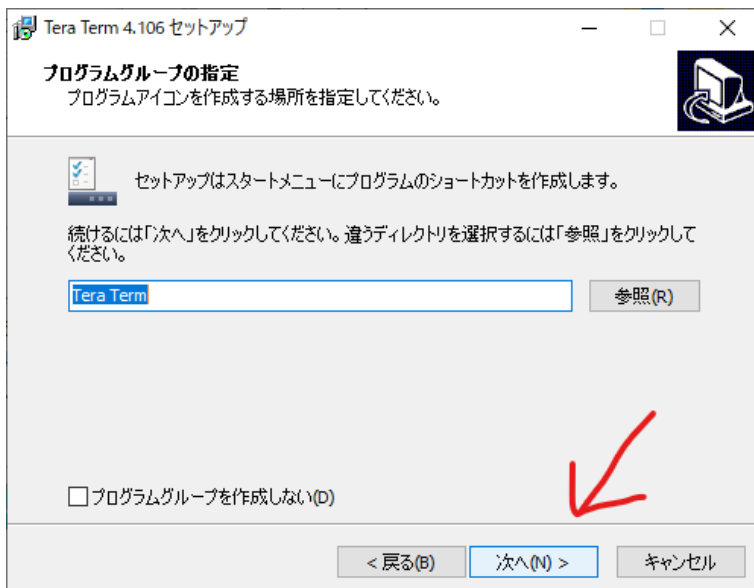
次のコンポーネントの選択では、初期値のまましていく。



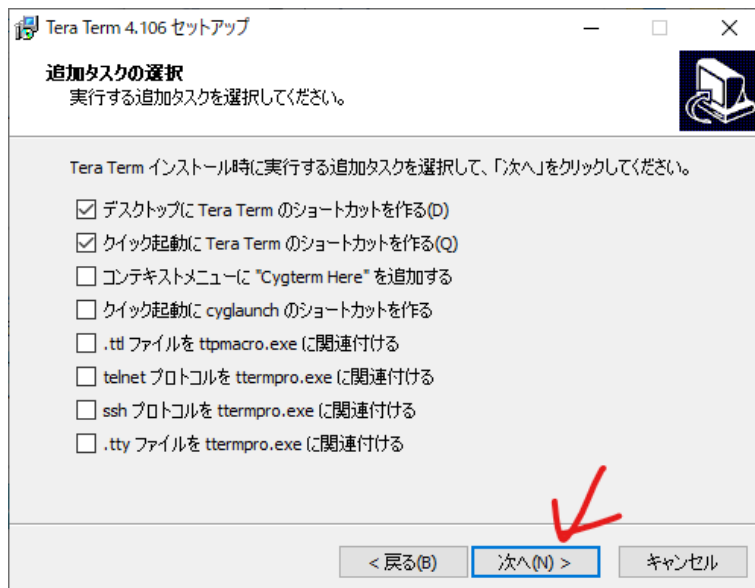
言語の選択では、“日本語”を選択。



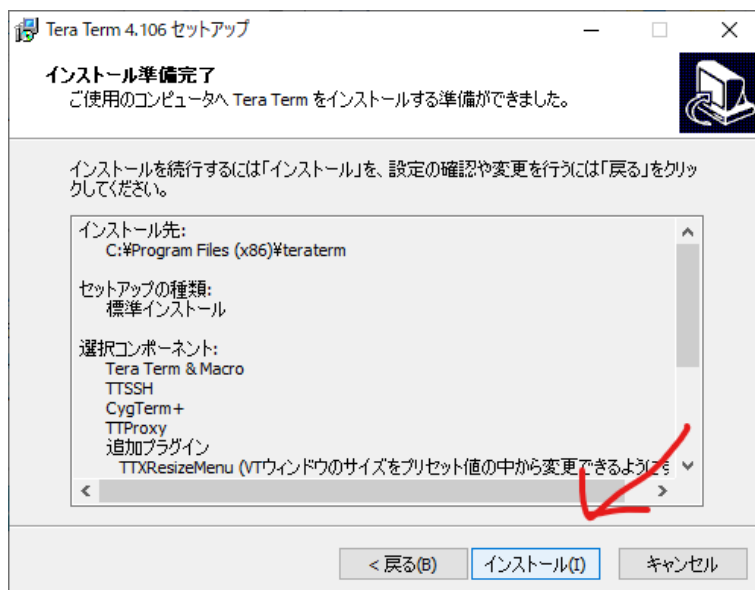
プログラムグループの指定は、そのまま。



追加タスクの選択も、そのままをクリック。



確認画面。





完了。



## 3 Web サーバーを動かす

### 3.1 作業フォルダで HTML ファイルを作成

適当なフォルダに作業フォルダを作る。

ここでは作業フォルダを test とする。

その test の中に、index.html を作成する。内容は以下。

リスト 1 index.html

```
1 <!doctype html>
2 <html lang="ja">
3   <head>
4     <meta charset="utf-8">
5     <title>TEST</title>
6   </head>
7   <body>
8     <h1>TEST</h1>
9   </body>
10 </html>
```

### 3.2 簡易 Web サーバーを起動

test フォルダでコマンドプロンプトを起動する。

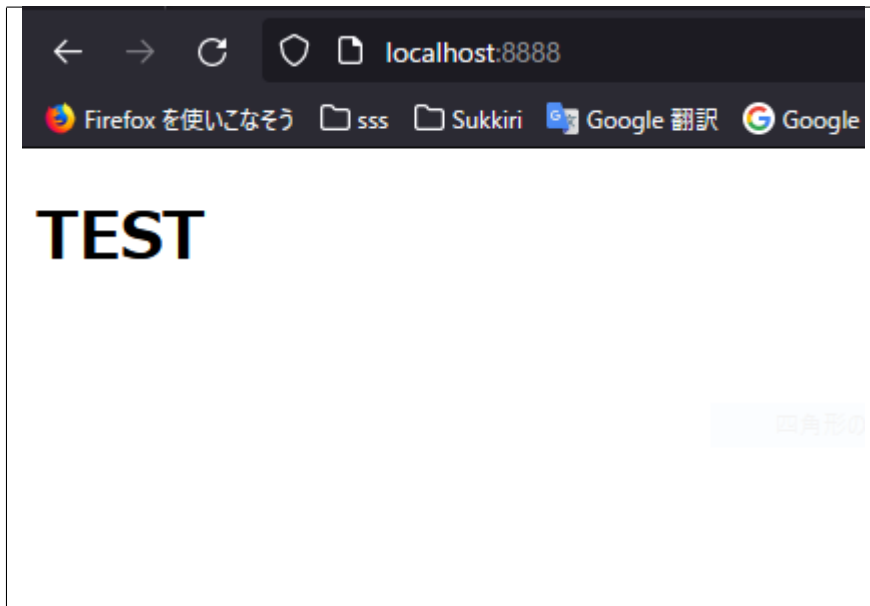
以下のコマンドを実行する。

```
> php -S localhost:8888
```

すると、以下のような文字列が表示され、Web サーバーが起動したことがわかる。

```
[Sat Aug ...(略)...] PHP 8.0.9 Development Server (http://localhost:8888) started
```

ブラウザで <http://localhost:8888/> にアクセスしてみる。



先ほど作成した index.html が表示される。

## 4 Telnet で Web サーバーと通信する

### 4.1 Telnet とは

Telnet とは、“ネットワークを経由して別のコンピュータに接続し、そのコンピュータを操作する”ためのプロトコルである。

そのプロトコルを使った通信のためのツールが telnet (同じ名前)。

昔からあるツールだけど、現在でも、いろいろなサーバを管理するのに、そのサーバに接続するためのツールとして使われている。

ここでいう“接続”とは、ネットワーク越しに離れたコンピュータにコマンドを送ったりすること。つまり、“通信する”ということ。

“telnet.exe”というプログラムが Windows にはあるけれど、キョーレツ使いにくいので、TeraTerm を使う。

### 4.2 TeraTerm の設定

まず、使うための準備が必要である。

TeraTerm がインストールされたフォルダ C:\Program Files (x86)\teraterm を開ける。

その中に、TERATERM.INI というファイルがあるので、念のため、バックアップのためのコピーを作っておいて (“TERATERM.INI.org” というファイル名にしておく)、TERATERM.INI を TeraPad で開く。

```
TCPLocalEcho=off
TCPCRSend=
```

と書かれた箇所を検索して探し出し、(たぶん 680 行目くらい)、以下のように修正する。

```
TCPLocalEcho=on
TCPCRSend=CRLF
```

以下のように修正する。

```
673 ; >standard telnet port↓
674 TelPort=23↓
675 ↓
676 ; Keep-Alive packet sending interval on telr
677 TelKeepAliveInterval=300↓
678 ↓
679 ; Auto setup for non-telnet↓
680 TCPLocalEcho=off↓
681 TCPCRSend=↓
682 ↓
683 ; Terminal Speed (telnet/SSH)↓
684 TerminalSpeed=38400↓
685 ↓
686 ; Terminal Unique ID↓
687 TerminalUID=FFFFFFFF↓
688 ↓
689 ; Title format↓
```



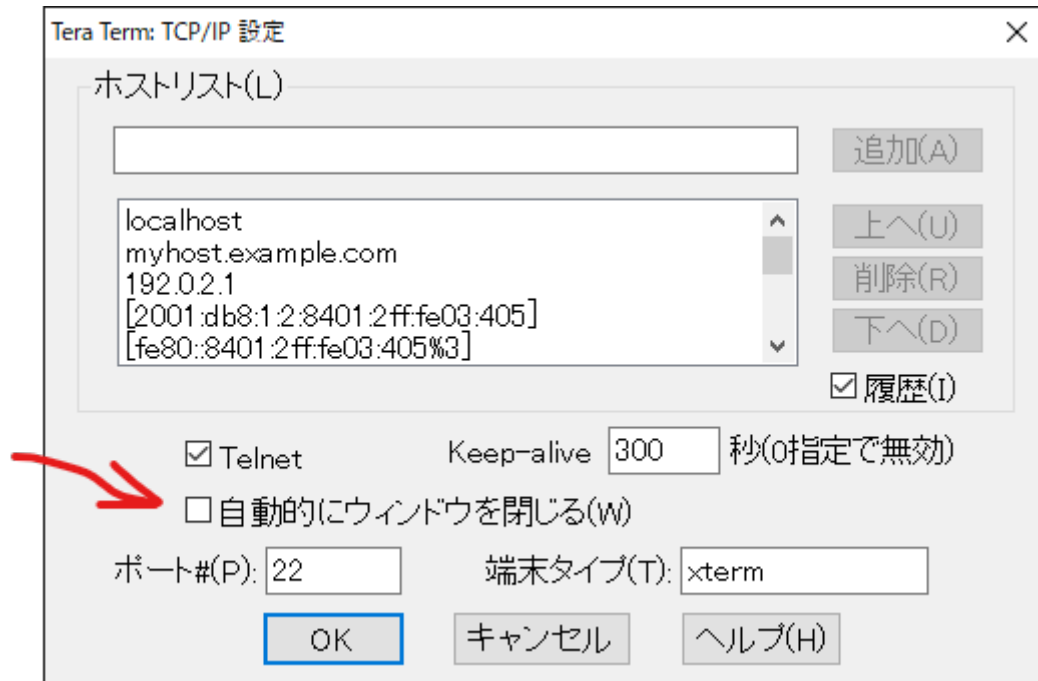
```
673 ↓
676 ; Keep-Alive packet sending interval
677 TelKeepAliveInterval=300↓
678 ↓
679 ; Auto setup for non-telnet↓
680 TCPLocalEcho=on↓
681 TCPCRSend=CRLF↓
682 ↓
683 ; Terminal Speed (telnet/SSH)↓
684 TerminalSpeed=38400↓
685 ↓
686 ; Terminal Unique ID↓
687 TerminalUID=FFFFFFFF↓
688 ↓
```

次に TeraTerm を起動する。

起動したら、“キャンセル”として、以下の設定をおこなう。

“設定” —— “TCP/IP” と選択する。

“自動的にウィンドウを閉じる” のチェックをはずす。



“設定” —— ” 設定の保存” を選択。 “TERATERM.INI” に上書き保存する。

TeraTerm を終了する。

## 5 Telnet で GET リクエスト

### 5.1 ブラウザは何をやっているのか？

現在、test フォルダを公開フォルダとして Web サーバーが動作している。

ブラウザから `http://localhost:8888` とすると、このフォルダにある `index.html` を表示させることができる。

このとき、ブラウザは Web サーバーにどういう働きかけをしているのか？

また、Web サーバーはどのような返答をしているのか？

ブラウザのやっていることを Telnet でやってみることができる。

### 5.2 GET リクエスト

ブラウザから、あるサイトにアクセスして、そのページを表示させたいとする。

これをあるがままに言うと、ブラウザがあるサイトにアクセスして、

このページの HTML をダウンロードさせてくれ

という要求をおこなっていることになる。

これを GET リクエスト という。

GET リクエスト のやり方は決っていて、以下のようなコマンドを送る。

```
GET / HTTP/1.1
Host: localhost:8888
(空行)
```

1 行目は、GET リクエストであることを示す。“/” は、パスをあらわす。“/index.html” を指定したと同じ。“HTTP.1.1” は、HTTP の 1.1 バージョンで通信するという意味。

2 行目は、相手ホスト名を指定している。80 番ポート (普通はこのポート) なら省略できるが、我々はさきほど、この Web サーバーを 8888 番ポートで起動したから、このポートを指定している。

そして、3 行目は、空行 を送る。これは絶対必要。

最後に <Enter> を送る。

この空行までをヘッダ部という。これが GET リクエストの決まりである。

これを TeraTerm でやってみる。

### 5.3 TeraTerm で Get リクエスト

TeraTerm を起動する。

“ホスト” に localhost と指定する。

“サービス” は Telnet にチェックを入れる。

“TCP ポート” は 8888 と指定する。

ほかはそのままで、“OK” とする。

Tera Term: 新しい接続

☒ TCP/IP    ホスト(T): localhost

☒ ヒストリ(O)

サービス: ☒ Telnet    TCPポート#(P): 8888

☐ SSH    SSHバージョン(V): SSH2

☐ その他    IPバージョン(N): AUTO

☐ シリアル(E)    ポート(R):

黒い画面があらわれるので、以下の内容を黒い画面に入力する。

```
GET / HTTP/1.1
Host: localhost:8888
(空行)
```

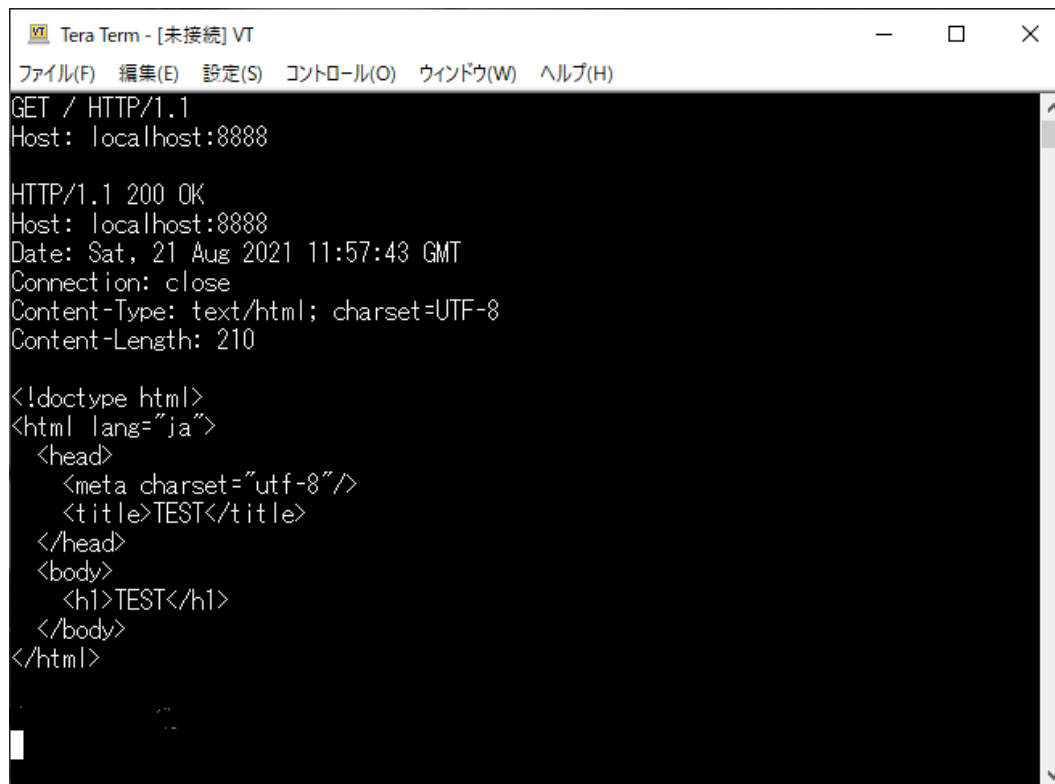
大文字、小文字に気をつけて入力する。

localhost - Tera Term VT

ファイル(F) 編集(E) 設定(S) コントロール(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

```
GET / HTTP/1.1
Host: localhost:8888
```

そして <Enter> キーを押すと、以下のように出力される。



```
Tera Term - [未接続] VT
ファイル(F) 編集(E) 設定(S) コントロール(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)
GET / HTTP/1.1
Host: localhost:8888

HTTP/1.1 200 OK
Host: localhost:8888
Date: Sat, 21 Aug 2021 11:57:43 GMT
Connection: close
Content-Type: text/html; charset=UTF-8
Content-Length: 210

<!doctype html>
<html lang="ja">
  <head>
    <meta charset="utf-8"/>
    <title>TEST</title>
  </head>
  <body>
    <h1>TEST</h1>
  </body>
</html>
```

空行の下の “HTTP...” 以下は Web サーバーからの応答 (レスポンス) である。

- HTTP/1.1 — HTTP プロトコルのバージョン 1.1 で応答するということ。
- 200 OK — 正常な処理だということ。
- Host: localhost:8888 — サーバー側のホスト名とポート番号。
- 日付 – ”GMT” となっているのは、グリニッジ標準時のこと。日本よりも 9 時間遅い。
- Connection: close — この応答で接続が閉じられたことを表す。
- Content-Type: text/html; charset=UTF-8 — 空行の後に送る文字列 (ボディ部) は HTML で、文字コードは UTF-8 であることを (ブラウザに) 伝えている。
- Content-Length: 210 — 空行の後に送る文字列は 210 文字であることを示している。  
210 文字というのは、本当は 159 文字で、この画像では消しているが、</html> の後に注釈の文字列が続いていたのである。

ここまでの ” ヘッダ部 ” で、 ” 空行 ” に区切られて、以下 ” ボディ部 ” が続く。

ボディ部はブラウザが受け取って処理をする。つまり、文字や画像をブラウザの画面に表示するのである。それを レンダリング (描画) という。

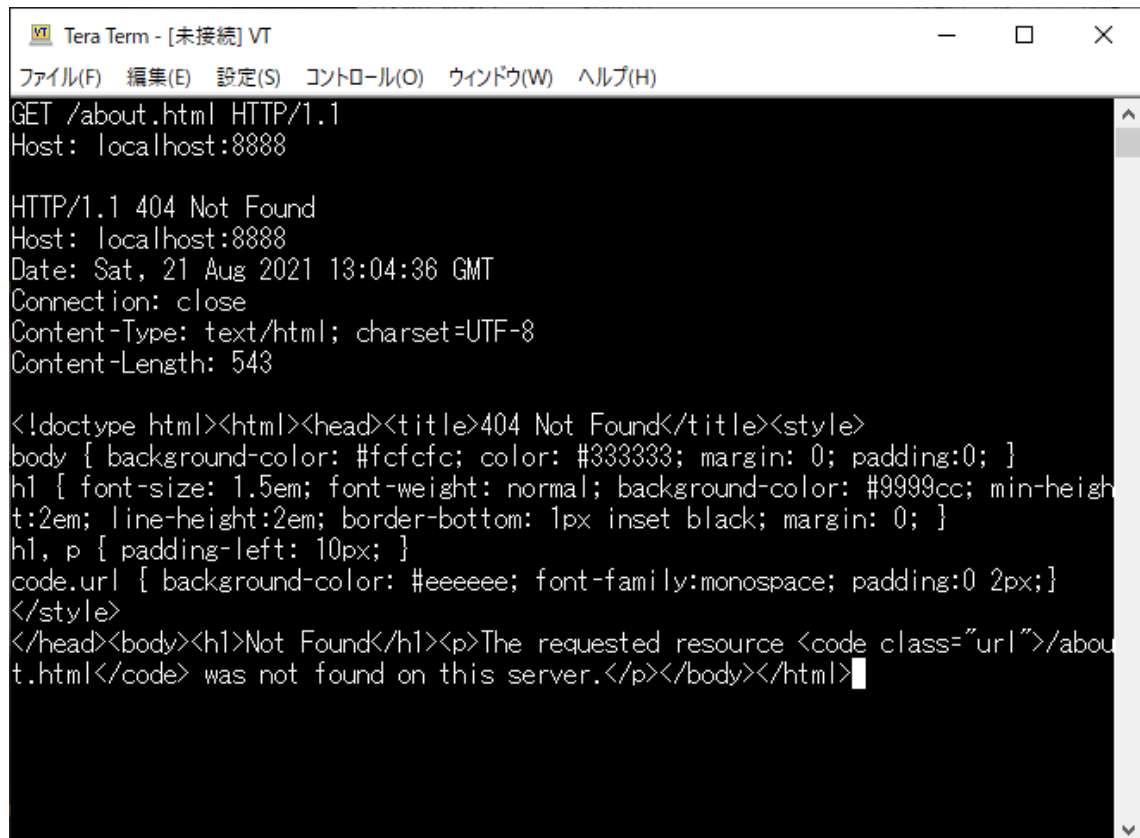


## 5.4 さまざまな GET リクエスト

Web サーバーに送る GET リクエストでは、“/” のみを指定したが、それ以外にたとえば、“/menu.html” などとファイル名 (パス) を指定することが多い。

もし、存在しないファイル名を指定すると、どうなるか？

これは、存在しないファイル “about.html” を指定した例である。



```
VT Tera Term - [未接続] VT
ファイル(F) 編集(E) 設定(S) コントロール(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)
GET /about.html HTTP/1.1
Host: localhost:8888

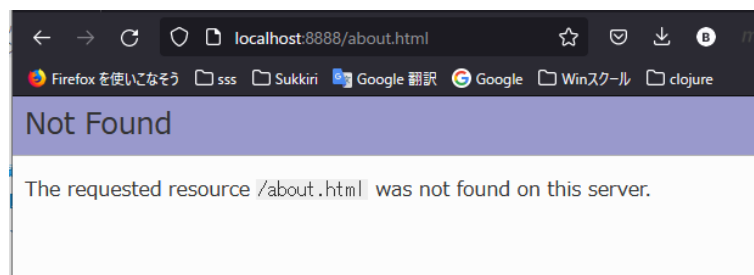
HTTP/1.1 404 Not Found
Host: localhost:8888
Date: Sat, 21 Aug 2021 13:04:36 GMT
Connection: close
Content-Type: text/html; charset=UTF-8
Content-Length: 543

<!doctype html><html><head><title>404 Not Found</title><style>
body { background-color: #fcfcfc; color: #333333; margin: 0; padding: 0; }
h1 { font-size: 1.5em; font-weight: normal; background-color: #9999cc; min-height: 2em; line-height: 2em; border-bottom: 1px inset black; margin: 0; }
h1, p { padding-left: 10px; }
code.url { background-color: #eeeeee; font-family: monospace; padding: 0 2px; }
</style>
</head><body><h1>Not Found</h1><p>The requested resource <code class="url">/about.html</code> was not found on this server.</p></body></html>
```

サーバーからの応答の 1 行目に、

HTTP/1.1 404 Not Found

とある。“404 エラー” と呼ばれる応答例である。これをブラウザで表示すると、以下ようになる。



## 5.5 ブラウザのやっていること

ブラウザは、ユーザーが URL 欄にアドレスを入力したら、そのアドレスに対して GET リクエストを送信する。

Web サーバーは、クライアントであるブラウザから URL を受け取って、そのファイルが存在するなら “200” という番号をヘッダ部書き、ファイル本体をボディ部に書いて、ブラウザに送る。

もしそのファイルが存在しなかったら、“404” という番号をヘッダ部書き、“Not Found” と表示させるための文字列をボディ部に書いて、ブラウザに送る。

Web サーバーから送られてきた応答のうち、ヘッダ部は、Web サーバーとブラウザとの暗黙のやりとりであり、ブラウザには直接表示されない。確認するためには、ブラウザのデベロッパーツールの” ネットワーク” タブを見るとよい。ボディ部はブラウザが画面にレンダリングするための情報である。デベロッパーツールの” インスペクター” タブで確認できる。

ボディ部は HTML という約束事にしたがって書かれている。(HTML のなかにも <head> 部と <body> 部があるが、混乱しないように。)

## 6 Telnet で POST リクエスト

### 6.1 サーバー側で準備をする

今度は POST 送信をやってみる。

まず、サーバー側に以下のような HTML を用意する。

リスト 2 post.html

```
1 <!doctype html>
2 <html lang="ja">
3   <head>
4     <meta charset="utf-8"/>
5     <title>Post</title>
6   </head>
7   <body>
8     <h1>Post</h1>
9     <form action="receive.php" method="post">
10       <label for="name">お名前</label>
11       <input type="name" name="name" id="name" />
12       <input type="submit" value="送信"/>
13     </form>
14   </body>
15 </html>
```

クライアント (ブラウザ) から、以下のように GET リクエストが送られると.....、

```
GET /post.html HTTP/1.1
Host: localhost:8888
(空行)
```

以下のようにレスポンスが返ってくる。

```
Tera Term - [未接続] VT
ファイル(F) 編集(E) 設定(S) コントロール(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)
GET /post.html HTTP/1.1
Host: localhost:8888

HTTP/1.1 200 OK
Host: localhost:8888
Date: Sat, 21 Aug 2021 22:15:09 GMT
Connection: close
Content-Type: text/html; charset=UTF-8
Content-Length: 358

<!doctype html>
<html lang="ja">
  <head>
    <meta charset="utf-8"/>
    <title>Post</title>
  </head>
  <body>
    <h1>Post</h1>
    <form action="receive.php" method="post">
      <label for="name">お名前</label>
      <input type="name" name="name" id="name" />
      <input type="submit" value="送信"/>
    </form>
  </body>
</html>
```

```
HTTP/1.1 200 OK
Host: localhost:8888
Date: Sat, 21 Aug 2021 22:15:09 GMT
Connection: close
Content-Type: text/html; charset=UTF-8
Content-Length: 358

<!doctype html>
<html lang="ja">
  <head>
    <meta charset="utf-8">
    <title>Post</title>
  </head>
  <body>
    <h1>Post</h1>
    <form action="receive.php" method="post">
      <label for="name">お名前</label>
      <input type="text" name="name" id="name" >
      <input type="submit" value="送信">
    </form>
  </body>
</html>
```

ブラウザの画面には以下のようにレンダリングされる。



ここでユーザーは名前を入力し、送信ボタンを押して、Web サーバーに入力した情報を送信する。  
このとき、post.html には、以下のように送り先が指定されている。

```
<form action="receive.php" method="post">
```

これは、送り先が “receive.php” で、送信方法が “post” 送信であるという指定である。

まず、Web サーバーに、クライアント (ブラウザ) から送信された情報を受け取るためのファイル “receive.php” を作成する。“test” フォルダに以下の内容で作成する。

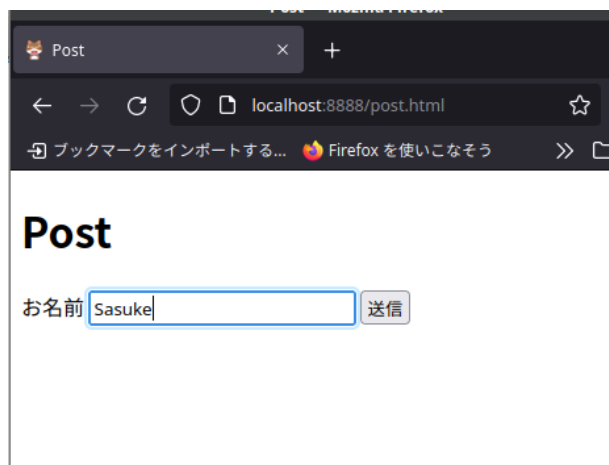
リスト 3 receive.php

```
1 <?php
2 $name = $_POST['name'];
3 ?>
4 <!doctype html>
5 <html lang="ja">
6   <head>
7     <meta charset="utf-8"/>
8     <title>receive</title>
9   </head>
10  <body>
11    <h1>receive</h1>
12    <p>name="<?php echo $name; ?>"</p>
13  </body>
14 </html>
```

これは、クライアントから送られてきた “name” の内容を \$name という変数にセットし、それをブラウザで表示するというものである。

実際に試してみる。“test”フォルダでコマンドプロンプトを起動し、`> php -S localhost:8888`として、Web サーバーを起動する。

ブラウザで `http://localhost:8888/post.html` にアクセスして、名前を入力して送信する。



名前を入力して送信すると.....



このようにブラウザの画面で表示される。

これを TeraTerm を使って Telnet 画面でやってみる。そのことで、ブラウザと Web サーバーでは実際にどのようなやりとりが行われているかを確認する。

## 6.2 Telnet での POST 送信のしかた

“test”フォルダで Web サーバーが動作している状態で、TeraTerm を起動し、POST 送信をおこなうが、今度は送信文字列が長いので、TeraPad などのエディタで、送信文字列をあらかじめ作成して、それをコピーして TeraTerm の画面に貼り付けることにする。

リスト 4 post-request.txt

```
1 POST /receive.php HTTP/1.1
2 Host: localhost:8888
3 Content-Length: 11
4
5 name=Sasuke
```

1. 今回は POST 送信なので “POST” と指定する。  
また、送り先として “receive.php” を指定する。
2. これは GET の場合と同じである。
3. ここでは、ボディ部の長さを伝えている。“name=Sasuke” で 11 バイトである。
4. 空行がヘッダ部とボディ部の区切りである。
5. “name” という変数 (コントロール名) に “Sasuke” という値 (文字列) をセットしている。

5 行目の “name=Sasuke” は、post.html の以下の部分の記述に相当する。

```
<input type="text" name="name" id="name" >
```

つまり、ユーザーが入力してくれた 値 (文字列) に “name” という名前をつけて Web サーバーに送るという意味である。

ここでは、“name” という文字列がたくさん出てきてややこしいが、たとえば、以下のようになっていると

.....

```
<input type="text" name="namae" id="name" >
```

post-request.txt の 5 行目は、以下ようになる。

```
namae=Sasuke
```

要するに、Web サーバーから送られてきた post.html を画面に表示し、ユーザーが名前を入力し、送信ボタンが押されたとき、

```
POST /receive.php HTTP/1.1
Host: localhost:8888
Content-Length: 11

name=Sasuke
```

このようなコマンド文字列が Web サーバーに送られているのである。

そして、POST 送信の特徴は、送信されるデータが ボディ部 に埋め込まれるということである。ということとは、SSL 通信では暗号化されるということになる。(ヘッダ部は暗号化されない)

今回は送るデータは一つだけだが、POST 送信では多くのデータを送ることができる。

POST 送信以外に、GET 送信でもデータを送ることができる。以下のようなやりかたで送信する。

```
GET /receive.php?name=Sasuke HTTP/1.1
```

今回は GET 送信でのデータ送信は詳しくは触れない。

### 6.3 TeraTerm で POST 送信をやってみる

それでは、TeraTerm で POST 送信をやってみる。今回は、実際のやりとりを再現するために、“ローカルエコー”を“OFF”にしてみる。

今までは、TeraTerm の画面では、我々の入力した文字列と、サーバーが送り返してきた文字列を両方とも表示していた。しかし実際は、我々が入力した文字列はサーバーに送られてしまい、我々は見ることができないはずである。それでは仕事がやりにくいので、telnet プログラムには、ユーザーが入力した文字列をサーバーに送ると同時に、ユーザーにも表示してくれる機能がついている。それが“ローカルエコー”で、それを“ON”にすることで実現できる。

今までは TeraTerm の画面に直接文字列を入力していたので、“ローカルエコー”が“ON”のほうがやりやすかった。今回は、エディタで文字列を準備しておいて、TeraTerm の画面には貼り付けるだけなので、“ローカルエコー”を“OFF”にしてもできる。

“ローカルエコー”を“OFF”にするには、2つの方法がある。

1. 設定ファイル (TERATERM.INI) を書き変える。
2. 一時的に変更する。

今回は、“一時的に変更する”のほうでやってみる。

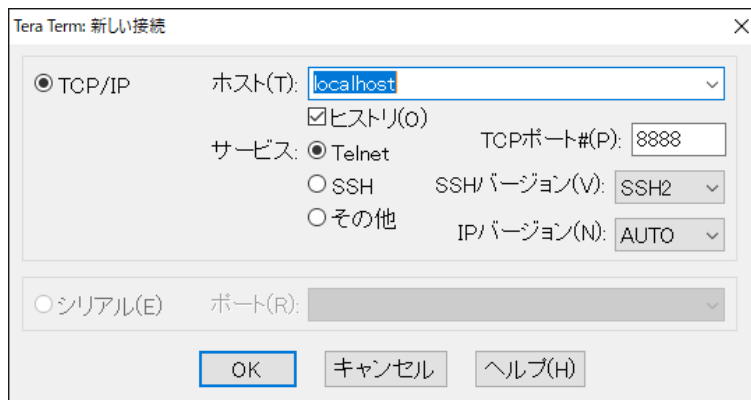
手順をまとめると以下になる。

1. TeraTerm を起動する。
2. “設定” — “端末”を選択して“端末の設定”画面で、“ローカルエコー”のチェックをはずす。
3. “post-request.txt”の内容をコピーする。
4. “編集” — “貼り付け”を選択。
5. 貼り付ける文字列の確認画面が開くので、それを OK する。
6. 黒い画面になるので、“<Enter>”キーを押す。
7. サーバーから文字列が送られてくる。

以下、ひとつひとつの手順を確認する。



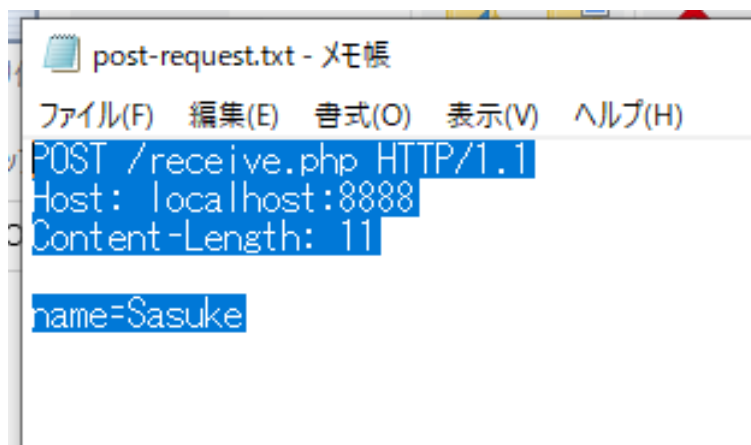
1. TeraTerm を起動する。



2. “設定” — “端末” を選択して “端末の設定” 画面で、“ローカルエコー” のチェックをはずす。

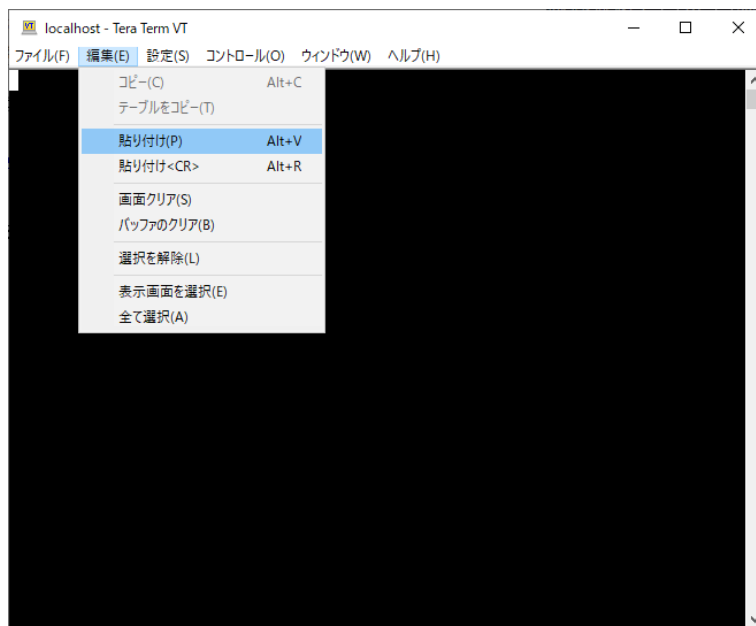


3. “post-request.txt” の内容をコピーする。

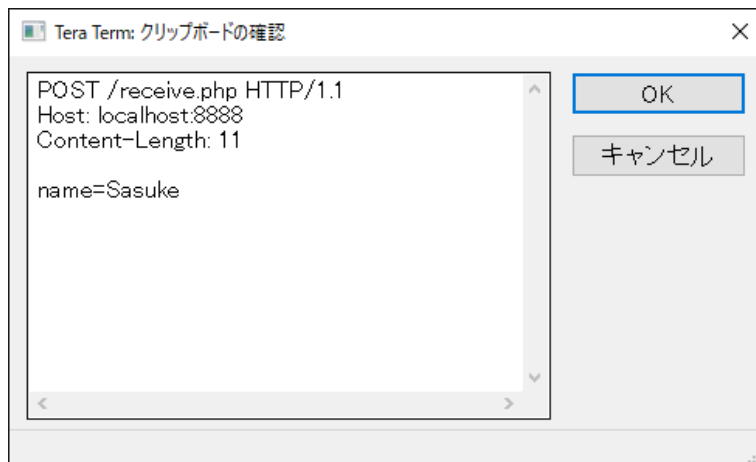


余分な”空行”などコピーしないように “Sasuke” までをコピーする。

#### 4. TeraTerm の黒い画面で “編集” — “貼り付け”

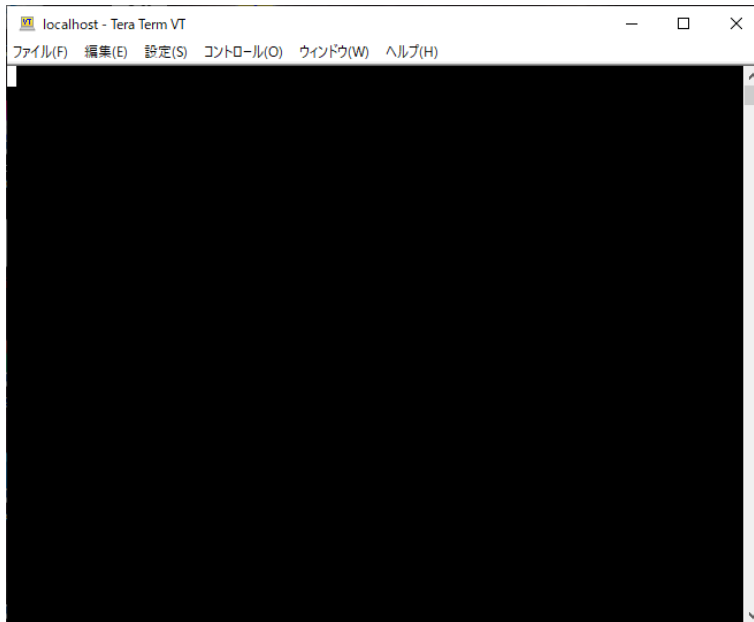


#### 5. 貼り付ける文字列の確認画面が開くので、それを OK する。

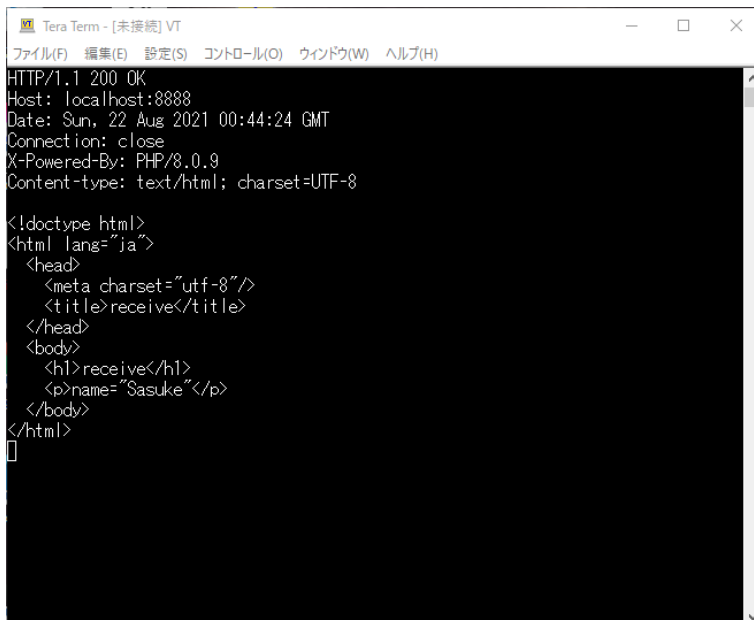


6. 黒い画面になるので、“<Enter>” キーを押す。

こちらから貼り付けた文字列はサーバーへ送られたので、画面には出ていない。これが“ローカルエコー・オフ”ということである。



7. サーバーから文字列が送られてくる。



送られてきた文字列は、以下である。

```
HTTP/1.1 200 OK
Host: localhost:8888
Date: Sun, 22 Aug 2021 03:15:13 GMT
Connection: close
X-Powered-By: PHP/8.0.9
Content-type: text/html; charset=UTF-8

<!doctype html>
<html lang="ja">
  <head>
    <meta charset="utf-8"/>
    <title>receive</title>
  </head>
  <body>
    <h1>receive</h1>
    <p>name="Sasuke"</p>
  </body>
</html>
```

ヘッダ部は GET 送信のときとそんなに変りはない。5 行目で PHP で処理したことが明記されている。ボディ部のほうは、“receive.php” の内容であるが、`<?php ... ?>` で記述された部分はない。特に、`<?php echo $name; ?>` で記述された部分は 文字列”Sasuke” に置き変わっている。

## 7 PHP と JavaScript

### 7.1 PHP のはたらき

PHP は、ユーザーがブラウザを通じて入力したデータを扱うことができる。また、データベースに接続して、そこから取得したデータを扱うことができる。PHP は、Web サーバーと連携して動作し、データを HTML の中に埋め込むことができる。

だから PHP は、サーバーで動く。データを加工し、HTML に埋め込む。サーバーからクライアント (ブラウザ) に応答するときには、PHP はもう姿を消している。

### 7.2 JavaScript のはたらき

では、JavaScript はどうだろうか？

ために、以下のような HTML を書いてみる。そこに JavaScript を埋め込んでみる。

リスト 5 sample.html

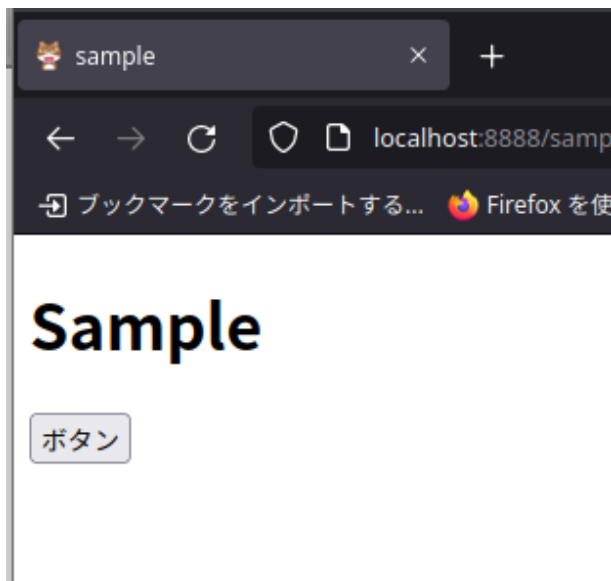
```
1 <!doctype html>
2 <html lang="ja">
3   <head>
4     <meta charset="utf-8">
5     <title>sample</title>
6   </head>
7   <body>
8     <h1>Sample</h1>
9     <button id="button">ボタン</button>
10    <script>
11      const btn = document.getElementById('button')
12      btn.onclick = function () {
13        alert('Hello!')
14      }
15    </script>
16  </body>
17 </html>
```

上のコードを “test” フォルダに “sample.html” という名前で保存する。

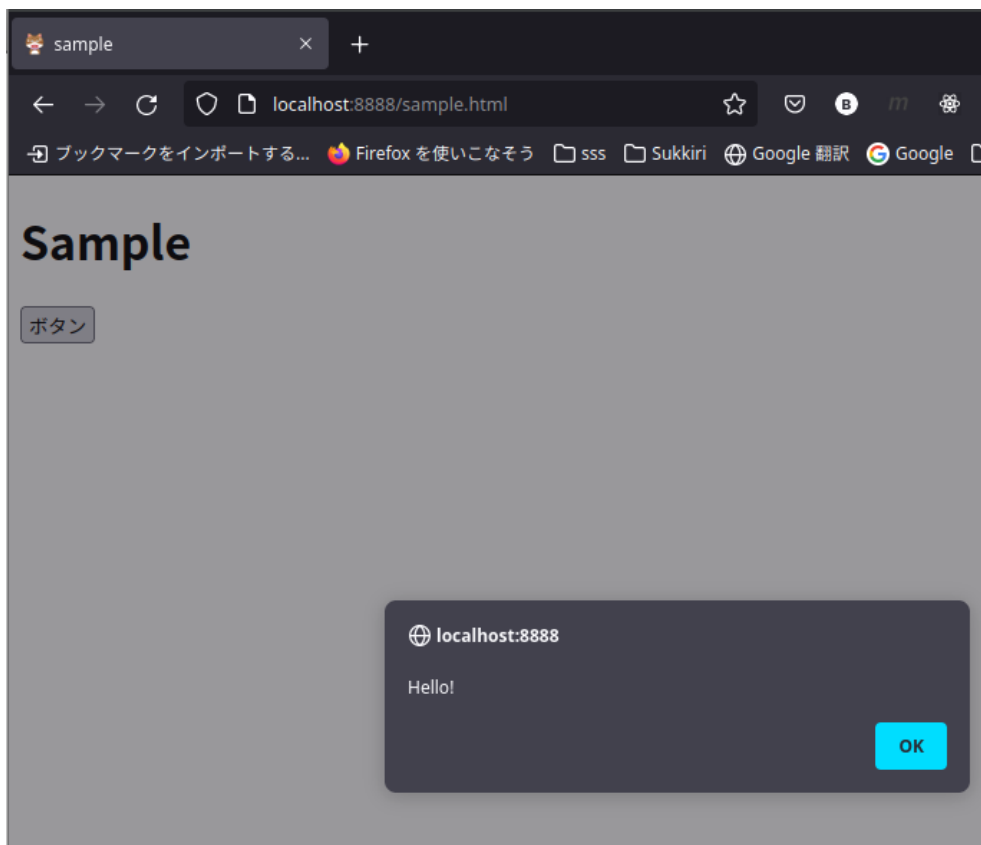
そして、“test” フォルダで Web サーバーを起動する。(起動しっぱなしになっていてもよい)

Web サーバーの起動は、 `> php -S localhost:8888` で起動できる。

ブラウザで “http://localhost:8888/sample.html” にアクセスする。



このボタンをクリックすると、



と表示される。

### 7.3 TeraTerm でやってみる

TeraTerm で GET してみたら、どうだろうか？

Web サーバーが動作しているのを確認したのち、TeraTerm を起動する。

ホスト : localhost

サービス : Telnet

TCP ポート : 8888

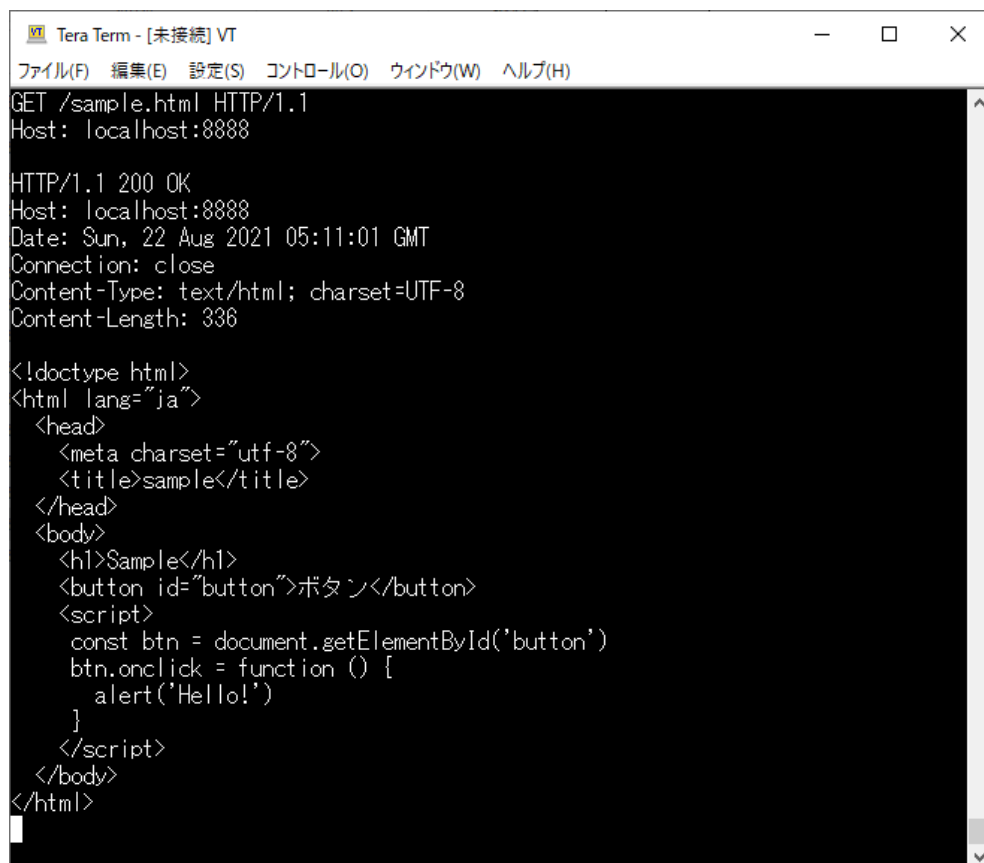
開いた黒い画面に以下を入力する。

```
GET /sample.html HTTP/1.1
```

```
Host: localhsot:8888
```

```
(空行)
```

ここで <Enter> とすると、以下のように出力される。



```
Tera Term - [未接続] VT
ファイル(F) 編集(E) 設定(S) コントロール(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)
GET /sample.html HTTP/1.1
Host: localhost:8888

HTTP/1.1 200 OK
Host: localhost:8888
Date: Sun, 22 Aug 2021 05:11:01 GMT
Connection: close
Content-Type: text/html; charset=UTF-8
Content-Length: 336

<!doctype html>
<html lang="ja">
  <head>
    <meta charset="utf-8">
    <title>sample</title>
  </head>
  <body>
    <h1>Sample</h1>
    <button id="button">ボタン</button>
    <script>
      const btn = document.getElementById('button')
      btn.onclick = function () {
        alert('Hello!')
      }
    </script>
  </body>
</html>
```

```
HTTP/1.1 200 OK
Host: localhost:8888
Date: Sun, 22 Aug 2021 05:07:08 GMT
Connection: close
Content-Type: text/html; charset=UTF-8
Content-Length: 336

<!doctype html>
<html lang="ja">
  <head>
    <meta charset="utf-8">
    <title>sample</title>
  </head>
  <body>
    <h1>Sample</h1>
    <button id="button">ボタン</button>
    <script>
      const btn = document.getElementById('button')
      btn.onclick = function () {
        alert('Hello!')
      }
    </script>
  </body>
</html>
```

このように JavaScript は HTML といっしょに Web サーバーから送られてくる。そして、ユーザーのブラウザでレンダリングされ、そのときに JavaScript は動作を始める。